

<目次>

I 「キャリア教育」について

- 1 「キャリア教育」の定義と目的
- 2 「キャリア教育」の叫ばれ出した背景
- 3 「キャリア教育」と「進路指導」との違い

II 本校における「キャリア教育」導入

- 1 本校における「キャリア教育」導入の必要性
- 2 「キャリア教育」導入の経緯
- 3 本校の「キャリア教育」導入の基本方針および仮説
 - ① 全体的な構想
 - ② 全体計画作成の手順
 - ③ 全体計画作成の方針
 - ④ キャリア教育導入の仮説
- 4 「キャリア教育」導入・実践プロセス
導入準備年度（平成20年度）
導入予定年度（平成21年度）

III 本校における「キャリア教育」実施計画

- 1 「キャリア教育」全体計画図
- 2 「目指す生徒像」と「身につけさせたい能力」、「キャリア諸能力」との関わり
- 3 「身につけさせたい能力」と「各学年の進路指導目標および指導内容」との関わり
- 4 学年進路指導計画と「身につけさせたい能力」「各学年の進路指導目標および指導内容」
- 5 指導計画検討の結果

良い点

弱点

検討からわかる留意点

- 6 各領域における指導内容と扱い および検討依頼先

IV キャリア教育導入にあたって

- 1 平成21年度の方針
- 2 今後に向けて
- 3 キャリア教育に関する予算執行について

別表1 企業への聞き取り調査

別表2 関係団体による「キャリア教育」諸能力の定義と「身につけさせたい力」の関連

別表3 高等学校学習指導要領 第4章 特別活動

別表4 「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」

I 「キャリア教育」について

1 「キャリア教育」の定義と目的

- ・「端的には児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」（文部科学省）
- ・「教育と職業を結びつける総合的な教育活動の総称」（東北大学大学院教育学研究科 菊地武尅）
- ・「児童生徒一人一人のキャリア形成のために必要な情意や能力をはぐくむ指導」
キャリア＝経験とともに身に付けていく考え方や力の累積（宮城県教育研修センター）
- ・「将来子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していく」ことが目的（中教審答申 平成20年）

2 「キャリア教育」の叫ばれ出した背景

- ・平成11年度「接続答申」
→「小→中」「中→高」「高→大」などの校種間、および「学校と社会」「教育と職業」「知識と労働」の乖離が問題となり、「キャリア教育」という用語が初出
- ・フリーター・ニートの社会問題化、若年層の自立意識・将来見通しの不十分さ
→従来の学校教育の見直し+「生きる力」の育成体制強化
- ・非正規雇用の増大は企業の雇用姿勢の変化に、若年層の自立意識や将来見通しの不足は地域社会の崩壊や家庭の教育力の低下にそれぞれ原因があるが、現実に生徒が生きていくことを考えるとキャリア教育の必要性は否定できない。

3 「キャリア教育」と「進路指導」との違い

- ・「**進路指導**」→「進路意識高揚・適切な進路決定の援助」が目的だが、「出口指導」「学力による輪切り」「事務的」「3年生になってから」となりやすいきらいがあり、発達的な観点が置き去りになりやすい。また担当部署だけに責任が集中しやすい。
- ・「**キャリア教育**」→目標は「進路指導」と似ているが、そのための「育成」「レディネス形成」に主眼をおいており、「自立支援」「内的・外的キャリアの形成」「学校組織への位置づけ」「全校的な取り組み」など、総合的に生徒を自立に向かって育成しようという方向性が明白である。
- ・反面「流行言葉を安易に使う風潮にはなじめない。進路指導との違いがわからない」「教育の基本であり、今さら新しい言葉で言うほどのことでもない」「学校毎に意味が異なるものであり、全て同じ言葉で推進するのはいかなるものか」「ただでさえ仕事量が多いのに、新しいシステムを導入してうまくまわるのか」などの至極もったもな批判も根強く、「キャリア教育について組織的・体系的な指導計画を作成している」高校は26%という状況となっている

（リクルート社「キャリアガイダンス」アンケート結果より）。

II 本校における「キャリア教育」導入

1 本校における「キャリア教育」導入の必要性

<進路指導部から>

- ・ 「進路の手引」「進路LHR」「進路ガイダンス」「ジュニア・インターンシップ（全員対象）」「進路指導通信『未来へ』」など、進路指導の内容は他の進路多様校と比較してもかなり保障されていると考えるが、全体の見通しや系統性は未整理であり、学校全体で共通理解して指導に当たっているとは言いがたい。
- ・ これらを整理し、見通しをはっきりさせた上で学校全体として共通理解を図る必要がある。

<学校組織のあり方から>

- ・ 学科が4つあるため、クラス集団に著しい実態差・性差が見られ、指導の目線をそろえにくい。抱える問題が学科ごとに全く別物になってしまう。
- ・ そのため、幅広い実態差を吸収できる指導計画の蓄積がない。
- ・ 通常の普通高校のように、「自然発生的に誰かが始めたことが学年全体に広がり、うまく機能する」という現象が発生できない。工業高校のように、「学科長をリーダーとして、各学科が良い意味で競い合う」という現象も発生できない。
- ・ 結果として、「学年」「学科」「分掌」のどこも司令塔になりきれず、実施の段階や問題が発生した段階で学年に全ての判断がゆだねられる局面が出てきやすい。
- ・ 「これをするな」「これはダメ」という（後ろ向きの）指導はかなり機能しているが、「これをしよう」「こうなさい」という（前向きの）指導はあまり機能していない。
- ・ 生徒にどうなって欲しいのか、幅広い実態に対応できる目標と指導計画が必要である。

<各学年から>

- ・ 「黒川高校としての学年目標」は存在せず、現行のものは各学年主任の先生方の個人的な所信表明に近い。年度ごとに学年目標が変わってしまい、指導の継続性に問題がある。
- ・ 「学年」という現場部門に、過大に長期的な視野が求められてしまっている。
- ・ 各学年での指導目標の系統化、明確化の必要性がある。

<学科改編・学校を取り巻く状況変化から>

- ・ 工業学科の増加により、就職校であることがさらに明確になりつつある。
- ・ 全国区の企業の進出・景気の動向の変化により、就職に関わる能力・態度・意識の強化が急務となりつつある。
- ・ 学校で行っている指導の外部への説明、さらには対外的な宣伝要素が必要となりつつある。
- ・ 以上の理由によると推察されるが、平成20年度6月職員会議で校長から「キャリア教育導入」の指示が発せられている。

<企業の声から>

- ・ 別表1参照。「キャリア教育」の必要性が生々しく感じられる。
- ・ コミュニケーション能力重視の採用活動は進行している。以前は企業が重視する基礎能力は「読み」「書き」「算盤」だったが、最近のはっきりと「聞く」「伝える」「算盤」に変化している。
(平成20年度第2回高卒者就職対策連絡会議における高木茂氏の講演より)

以上により、組織の基盤となるような、目標の整理／共有化が必要と考えられる。

2 「キャリア教育」導入の経緯

- ・当初は学年目標を「学習指導」「生徒指導」「進路指導」の3本柱で整理・系統化し、活用できないか私案として検討していた（下図参照）

| | 学習指導 | 生徒指導 | 進路指導 |
|------|--|---|--|
| 1 学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習する意義の再確認 ・学習習慣の確保 ・中学校までの「学習の壁」でのつまづきの除去 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・ルール・マナーの必然性の理解 ・奉仕の心の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な進路選択の方法・考え方の理解 ・基本的な進路情報の理解 ・将来の方向性の検討 |
| 2 学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要なレベルの学力の理解と獲得 ・大学入試等で最低限必要な学力レベルの理解と獲得 ・学習に対する具体的な目標設定と実行（個人ごと） | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を主体的に果たす態度の育成 ・ルール・マナーを積極的に尊重する態度の育成 ・上級生としての良識ある行動をする態度の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会規範・マナーの理解と習得 ・コミュニケーション能力の育成・向上 ・将来の方向性の確定・そのための判断力育成・自己理解の徹底 |
| 3 学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路上必要な学力獲得 ・社会に出るにあたって、上級学校で学習するのに必要な知識・見識の獲得 | <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップを発揮しうる生徒の育成 ・ルール・マナーを他の生徒に呼びかける態度の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・適切な職業観・学問観の育成 ・進路決定に当たっての実践的な競争力の育成 |

- ・このうち「進路指導」に関して平成21～22年度中に提案し、「学習指導」「生徒指導」についても関連分掌に検討を呼びかけ、「これをしよう」を学校として明示する予定だった。
- ・当初の私案の名称は「学校目標の構造化」だったが、教頭からの「それはキャリア教育である」という言葉により、「キャリア教育」として提案

3 本校の「キャリア教育」導入の基本方針および仮説

① 全体的な構想

- ・本校では「キャリア教育」を、「発達的な観点を踏まえた総合的な進路指導」と捉え、全体計画を作成する。
- ・全体計画は、学校での教育活動のうち、主に教科外指導の部分を「キャリア教育」の観点から整備・系統化・構造化する形で作成する。
- ・これらの教科外指導の扱いについては、高等学校学習指導要領の「第4章 特別活動」に位置づけられているため、それらも参照しながら計画する。（別表3）

② 全体計画作成の手順

- ・学校教育目標を踏まえ、「目指す生徒像」「身につけさせたい能力」を明確化する。
- ・その際、発達的な観点とキャリア諸能力育成の観点を踏まえ、十分に広がりのある文言となるよう留意する。
- ・発達的な観点としては文部科学省「キャリア教育推進の手引」より「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」（別表4）を、キャリア諸能力としては文部科学省・経済産業省・厚生労働省が作成している「職業的（進路）発達に関わる諸能力」「社会人基礎力」「就職基礎能力」およ

び宮城県教育研修センターが作成した「自立を支える基礎的な力」「キャリア発達課題」をそれぞれ参考とする。(別表2)

- ・ 現行の進路指導計画を「身につけさせたい能力」から再検討し、目標および内容を精査し、指導の系統性や内容の過不足を再検討する。
- ・ さらに、進路指導以外の分野の目標等について担当部署に検討してもらい、学校組織・教育内容も適宜見直しながら、「キャリア教育」を学校組織に適切に位置づける。
- ・ その際、I-3で言われているような全国の高校からの至極もったもな批判に留意するため、以下の方針を徹底したい。

③ 全体計画作成の方針

- ・ 「**現行の指導を再構成して質と効果を高める**」
- ・ 「**生徒の実態等に基づく現場の感覚を尊重し、机上の空論に終始しないようにする**」
「キャリア教育」のようなものを導入する際に、気をつけなければならないのがこれらである。現行の指導の良い部分は残さなければならないし、生徒の実態や指導しての実感をあまりにも無視することはできない。逆に、日々生徒と関わりながら感じた部分は計画にできるだけ反映させた方が実態に即した計画になるであろう。資料上の整合性や対外的なアピール度を実際の指導より優先させると、良くある「研究指定校は次年度荒れる」という現象の再生産となってしまう。
- ・ 「**教育の基本に立ち返った観点から検討する**」
- ・ 「**指導の容易性よりも発達段階上の必要性を重視する**」
しかし、それぞれの指導に関して「生徒の実態から不可能」という結論を拙速に出すことも慎まなければならない。生徒の困難な実態があったとしても、原因は重要な情報を知らないことかもしれないし、適切な行動の仕方を知らないことかもしれない。不可能という結論を出し、放置することは状況を悪化させるだけである。「わからなくても、現在の君たちにこれは必要な内容だ」「君たちは現在このようなことをすべきだ」というスタンスは徹底したい。

④ キャリア教育導入の仮説

- ・ 「進路指導」も「キャリア教育」も、もっと言えば「学校教育目標」も、理想的な観点からは目標は同じものとなるはずである。したがって、誠実に教育活動を行っていれば、指導することはほとんど変わらず、ただ「よりよい進路指導を行おう」と思うか、「学校の仕事を全うし、きちんと教育しよう」と思うか、「これがキャリア教育だ」と思うか程度の違いであり、今後の本校が進むべき方向を考えればキャリア教育導入は(資料作成等の労を除けば)看板の違いでしかない。
- ・ しかし、これがきちんと機能すれば、組織が学科構成上バラバラになりやすい本校で、全教員が共通理解のもと教育活動にあたる基盤となるはずである。それにより行っている指導の3年間の中での位置づけを教員自身が把握でき、より確信を持って指導に当たることができると考えられる。また指導の(生徒から見たときの)温度差をある程度吸収しうる。
- ・ 結果として組織力は向上し、学校への生徒の信頼感は増し、生徒層の上昇や平常の学校の雰囲気向上、進路先からの信頼向上などにつながりうる。また景気の浮沈に強い、指導力のある学校に多少なりとも変化しうる。そしてそのような指導体制を人が替わっても継続しうる。
- ・ 危惧される点としては、「一応の計画はできたが、機能していない」「計画を事務的に実行するだけ」「全体を把握できる人がいない」「学校の宣伝材料にしかなくておらず、指導された生徒の実感と対外的なイメージがかけ離れている」などの状態に陥りやすそうな点が挙げられる。

4 「キャリア教育」導入・実践プロセス

導入準備年度（平成20年度）

- ・ 「キャリア教育委員会」設置 (運営委員会をもって代替、終了)
- ・ 企業への「キャリア教育で身につけさせたいこと」の聞き取り調査 (終了)
- ・ 「目指す生徒像」「身につけさせたい能力」明確化、全校的に検討 (終了)
- ・ 学年の指導目標への位置づけ (終了)
- ・ 3年間の進路指導計画・進路通信発行計画の再検討 (試案作成中)
- ・ 3学年の生徒へのアンケート調査 (本日実施)
- ・ 進路指導以外の分野への協力依頼事項の洗い出しおよび検討依頼 (終了)
- ・ 教職員研修会 (今です)
- ・ 全体計画の作成 (ほぼ終了、本計画)

導入予定年度（平成21年度）

- ・ 「全体計画」に基づくキャリア教育実施
- ・ 必要な関係資料・指導案などの整備
- ・ 実施しながらの感触による検証
- ・ 生徒・保護者・教職員へのアンケートによる検証
- ・ 進路指導以外の分野から、キャリア教育導入による効果や実感を報告
- ・ 反省点の洗い出し、次年度への反映

III 本校における「キャリア教育」実施計画

1 「キャリア教育」全体計画図

宮城県黒川高等学校 学校教育目標
 「公正・友愛・開拓」を校是とし、勤労を重んずる自主的な実践力と誠実に責任を果たす態度を養い、健全な判断力と社会性を兼ね備えた情緒豊かな人格を形成する

教師の願い
 ・厳しさを増す世の中で、たくましく生きていける人間
 ・素直さ・前向きさが魅力の人間

目指す生徒像
 ・グローバル化する社会の中で、良き職業人・社会人として働いていける資質と能力を身につけた生徒
 ・上級学校での学習に取り組んでいける学力・学習習慣・興味関心を身につけた生徒

生徒の実態
 ・純朴で教えがいのある生徒
 ・適切なキャリア教育を最も必要としている生徒

| | |
|------------|---|
| 身につけさせたい能力 | <ul style="list-style-type: none"> 進路選択を適切に責任持って行える自己理解・情報収集・処理・計画実行の能力 働くことへの意思、目的意識、責任感など、広い意味での勤労観・職業観 社会規範・マナー・コミュニケーション能力など、社会人としての基礎的な資質と能力 職業人として、また上級学校進学後に必要最低限の学力 |
| キャリア諸能力 | 自他の理解 情報収集・探索 計画実行 選択 課題解決 課題発見力 基本的な進路情報 職業理解 責任感 職業意識・勤労観 主体性 実行力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ビジネスマナー 読み書き 計算計数・数学的思考力 向上心・探究心 |

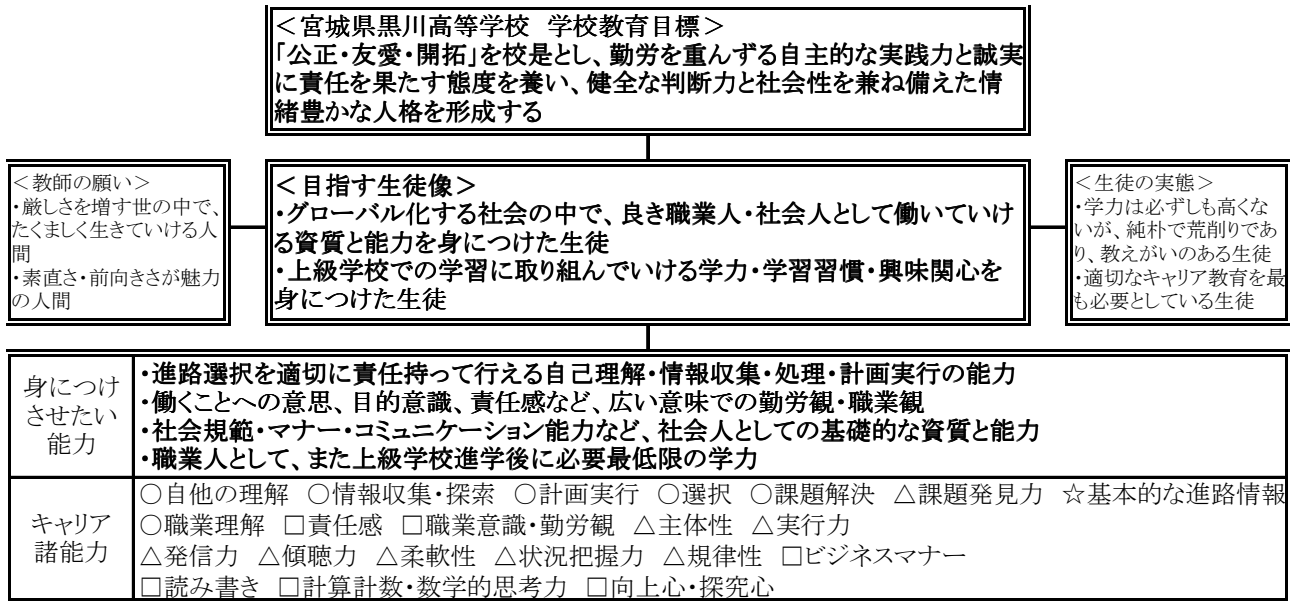
| | 1学年 基本の学習 Basic Study | 2学年 目標設定と行動 Target & Action | 3学年 実現と飛躍 Realization & Leap |
|------------|--|---|---|
| 各学年の進路指導目標 | 職業意識の基本を身につけ、基本的な進路情報および進路選択の方法を理解する。 | 職業人としての基本的な技能と、現実的な進路選択に必要な情報と判断力を身につける。 | 適切な職業観・学問観を身につけ、主体的な進路選択を行い、進路を実現する。 |
| 指導内容 | <ul style="list-style-type: none"> 高校生活への適応を図りながら自己理解を促し、自らの適性・希望を考えさせる。 職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 コミュニケーション能力の基礎としての傾聴力の再確認と伸長を図る。 基本的な進路情報と進路選択の方法を提示し、自らの大まかな将来展望と目標を持たせる。 進路上必要とされる学力水準を理解させ、そのための学習習慣を身につけさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 職業適性を含めた自己理解を深化させ、現在の努力目標を明確にさせる。 インターンシップ等を通し、職業観を養い、社会規範やマナーなどの必要性を理解させ習得させる。 発信力・傾聴力・状況把握力などのコミュニケーション能力の必要性を理解させ、伸長を図る。 具体的な進路先について調査させ、現実的な進路選択のための情報収集と判断力育成を図る。 適性検査・模擬試験等の進路諸活動を通じ、各種選考試験に対応できる実力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> 適切な自己理解に立った現実的な進路目標を具体的に設定させる。 適切な職業観や学問観・社会常識を育成し、卒業後の最終的な自立への援助とする。 発信力・傾聴力などのコミュニケーション能力の深化を図る。 進路達成までの流れに見通しを持たせ、計画的・主体的に動く態度と能力を育成する。 各種試験への実践的な対策を行い、学力向上・意識向上・進路実現を図る。 |

| 教科・領域 | 各領域における指導内容(キャリア教育の視点) | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--|--|--------------------|-------------------------------------|---|--|---------------------------------|-------------------------------|--|---|--|---|
| | 各教科 | | | 教科外活動 | | | | | | | その他の教育活動 | |
| 指導内容・ねらい | 普通教科 | 専門教科 | 総合的な学習 実習・課題研究 | ホームルーム活動 | 生活指導 | 朝学習・ 1分間スピーチ | 清掃活動 | 学校行事 | 生徒会・委員 会・部活動 | 進路行事 | | |
| ※学ぶことの大切さを理解させ、主体的に学習に取り組む態度と実践力を育てる。 | ※技術者として必要な知識と技能を身につけさせ、あわせてものづくりを担っていく人材として必要な興味関心と態度を育てる。 | ※小集団での活動を通し、問題解決能力とコミュニケーション能力(特に状況把握力)を伸ばすよう留意する。 | ※自己肯定感・他者への理解を獲得する | ※コミュニケーションを図り、望ましい人間関係の構築を軸に、各活動を進め | ※やがて社会に出ることを念頭に、ルール・規範意識・マナー等の必要性に気づかせ、率先して守る態度を育成する。 | ※基本的な生活習慣の確立・維持、学習習慣の定着、学習の短期目標、資格取得の一助とする | ※面接試験へ向け、コミュニケーション能力のうち発信力を育成する | ※環境美化意識・勤労意識・役割意識の獲得と定着を目的とする | ※学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を重視し、自主的・自発的な態度を養うとともに、集団への所属感を深めていく。 | ※主体的な活動を通して、集団生活での各自の役割を自覚させ、社会性や自己を生かす能力や態度をはぐくんでいく。 | ※学校行事等との連携を図りながら、社会の中での自分という面に目を向けさせ、具体的・現実的な進路を考えさせる。 | ※キャリアカウンセリングを通して、個と集団に対する指導・支援を充実させていく。 |

| キャリア教育の推進(実践)のための基盤 | 職員研修 | 指導体制 | 評価 |
|---|---|---|--|
| | 基本的なキャリア教育の概念等について全職員対象に研修会を行い、各学年の理解を得ながら平常の教育活動を通して教職員の意識向上を図る。 | 校務運営委員会に「キャリア教育委員会」としての機能を持ってもらい、必要事項の検討と、実践に当たっての検証を行う。 | 主に進路指導へのアンケートを中心に、指導された生徒の実感を改善に生かす。キャリア教育としての整合性などは教職員へのアンケートや反省会などで検証する。 |
| | 保護者 | 地域との連携 | 小中高の連携 |
| PTA総会・学年懇談会・地区PTA・進路指導通信「未来へ」・学校通信「嶺光」・学校HPなどを通し、キャリア教育への理解と協力を求め、連携を充実させる。 | ジュニア・インターンシップや実際の就職活動において、地元企業やハローワーク大和、町役場など地域の関係機関と連携を図る。 | インターンシップに関する情報交換を皮切りに、キャリア教育の情報交換、実践例の報告、専門学科による出前授業など関係強化に努める。 | |

2 「目指す生徒像」と「身につけさせたい能力」、「キャリア諸能力」との関わり

＜全体計画図＞より関連部分



学校教育目標を念頭に、「目指す生徒像」を学校の教育活動の3年間の到達目標として設定した。

- ・ その際、進路多様校であることと、学力・生活状況などの実態を念頭に置き、就職と進学の間について設定した。われわれ教員の願いが反映された、現実的に妥当な目標であると考え。

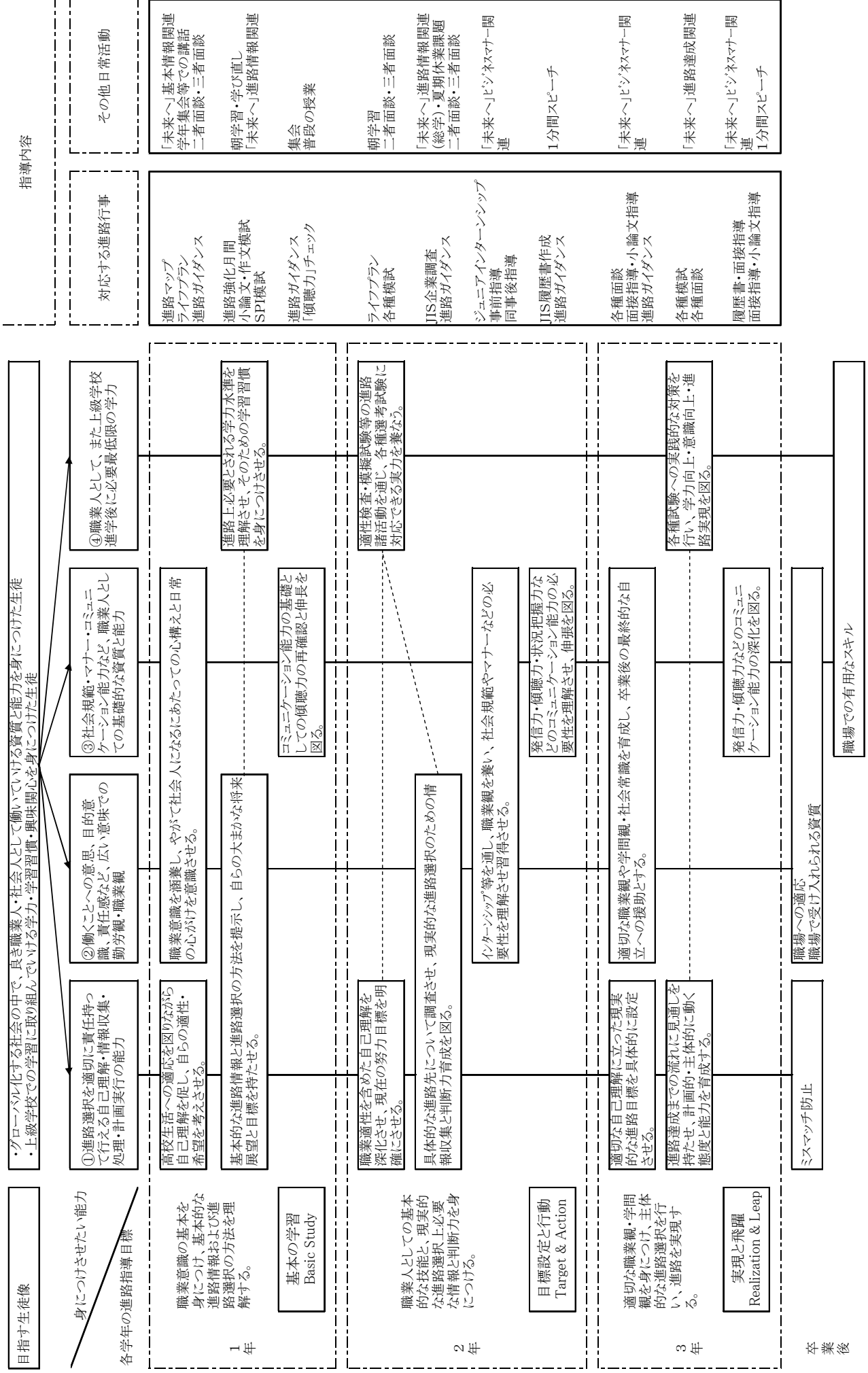
「目指す生徒像」を達成するため、どのような能力および指導が必要か、各所で出している「キャリア諸能力」を参考に、本校の「身につけさせたい能力」を検討・整理した。

- ・ 「キャリア諸能力」は、作成した各省庁・団体により力点の置き方の違いから「ずれ」が生じている。文部科学省の「職業的（進路）発達に関わる諸能力」は「進路・職業の選択および職業人として必要な資質はどのように形成されるか」、経済産業省の「社会人基礎力」は「企業で求められるのはどのような力か」「コミュニケーション力とは具体的にどのような力か」、厚生労働省の「就職基礎能力」は「採用試験を突破するにはどのような力が必要か」、宮教研セの「自立を支える基礎的な力」は「キャリアカウンセリングを行う際にはどのような視点が有効か」、宮教研セの「キャリア発達課題」は「現場でキャリア教育を考える際にどのような観点到に依拠すべきか」という点で、参考にすべきと考える。
- ・ 進路指導の観点からは、進路に関わる社会的な制度・統計情報・業種と職種・経済や企業に関する認識など、生徒側からの目線での各種情報が必要と考えられる。自主的に生徒が調べられれば一番だが、存在を全く知らないことには疑問を持たない。そのため最低限の知識を与えることはその後の自主的な活動のためにも不可欠である。これは各団体が作成したキャリア諸能力には出てこないが、必要性に鑑み、「基本的な進路情報」として入れることにした。
- ・ 以上の点から、「身につけさせたい能力」を上記のように定義し、対応するキャリア諸能力をそれぞれ同じ行に配置した。○＝文部科学省、□＝厚生労働省、△＝経済産業省、☆＝本校独自のものである。それぞれの能力の定義と「身につけさせたい能力」の関わりは別表2に掲げた。

3 「身につけさせたい能力」と「各学年の進路指導目標および指導内容」との関わり

- ・ 「身につけさせたい能力」を育成させるためのステップを各学年に段階化し、各学年の進路指導目標を設定した。
- ・ 進路指導目標を達成するために必要と考えられる指導内容を、「身につけさせたい能力」「キャリア諸能力」を念頭に設定した。
- ・ 「能力」と「指導内容」の関わり、および卒業後に必要とされるであろう能力とのつながりを図示したものを次ページに示す。

<各学年の進路指導目標 および目指す生徒像・身につけさせたい能力・指導内容の関連図>



4 学年進路指導計画と「身につけさせたい能力」「各学年の進路指導目標および指導内容」

- ・ ここまでに基づき、現行の進路指導計画をもとに、「キャリア教育」のねらいに沿った形で各学年の進路指導計画を構想した。
- ・ 雑駁になるため、「進路LHR」「進路ガイダンス」「模擬試験」「進路行事」「進路指導通信」など、進路指導部が主管しているものについてのみ示す。
- ・ 「身につけさせたい能力」「各学年の進路指導目標および指導内容」との関連は計画に示した通りである。
- ・ 次ページ以降に計画を示す。

5 指導計画検討の結果

良い点

- ・ 「身につけさせたい能力」を育成するための指導は各学年ともそれなりにバランス良く盛り込まれている。
- ・ 内容の系統性や学年進路指導目標との関連、「進路LHR」「進路ガイダンス」「ジュニア・インターンシップ」「履歴書指導」「面接指導」などと「進路指導通信」の連携などもかなりの程度確保されており、まず妥当な計画である。
- ・ 特に「意識向上」のための基本的進路情報の提供（各種制度・実際の選択肢・統計等のみならず、マナー・職業観・啓発的内容も含む）は、本校ではまずこの形が最適解であろう。

弱点

- ・ 反面、「キャリアガイダンス（情報提供）」機能は充分だが、「キャリアカウンセリング（個別相談・指導）」機能はこの計画にはほぼ入っていない。
- ・ また、「内的キャリア（気づき・感じたこと・意欲・態度・考え方・価値観）」「マナーの実践」「コミュニケーション」など、生徒側の行動や選択に直接関わる部分についてもこの計画からは伺い知れない。

検討からわかる留意点

- ・ 当たり前のことだが、「身だしなみ」「言葉づかい」「マナー」「傾聴する」などの社会規範・マナー・コミュニケーション能力の部分は、普段の指導や集会時の指導により、生徒の意識が向上するよう指導されなければならない。生徒指導部および学年との連携が必要である。
- ・ 「コミュニケーション」のうち、「状況把握力」については、小集団での合目的活動、つまり実習や課題研究、総合的な学習、部活動などで育成するのがもっとも効果的と思われる。同様に「発信力」は、1分間スピーチなどを通じてかなり高めうる。学科および学年との連携が必要である。
- ・ 「内的キャリア」（一般的に言う進路意識）の形成状況は、「キャリアカウンセリング」を通じて個々に把握する必要がある。現状では1～2年生は担任との二者面談・三者面談に全てがかかっているが、全担任にキャリアカウンセリングの技法を完璧に身につけて、生徒指導上の問題を脇に置いて面談してもらうのは不可能である。しかし3年生でいっぱい進路指導室をわざわざ訪れる1～2年生も少ない。3年生になったあとは面接指導などでキャリアカウンセリング的な話が行われる場合もあるが、担当者次第という部分も大きい。しかし全員の指導を進路指導部で代行するのは不可能であり、また適切でもない。学年を通じ、担任の先生方の意識を高めていた
だきながら密に連携することが必要であるが、このような「個別対応」「キャリアカウンセリング」
の部分が、キャリア教育を推進する上で最大の難点である。

10 学年進路指導計画と身につけさせたい能力・学年進路指導目標・学年・進路指導内容との関連

| 学年 | 学校行事など | 進路行事 | 実施形態 | 内容およびねらい | 進学/就職 | 進路選択を適切に行う能力 | | 身につけさせたい能力との関連・学年での指導内容との関連 | | | | 学年進路指導目標 | 半期毎の目標 |
|----|--------|------|------|---|-------|----------------|--|--|----------------------------------|---------------------------|--|----------|--------|
| | | | | | | 自己理解・情報収集・意思決定 | 自己理解・情報収集の能力 | 働くことへの意識、目的意識、責任感など、広い意味での職業観・職業観 | 社会規範・マナー・コミュニケーション能力など、社会的な資質と能力 | 職業人として、また上級学校進学後に必要最低限の学力 | | | |
| | | | | 基礎力診断テスト、進路マップ 自己紹介スピーチ グループ・エンカウンター 傾聴力診断テスト 全しかできないこと 部活動のすすめ ライフプラン① LHR 将来のために新聞を読もう 勉強のすすめ 学校に来る理由 ライフプラン② 入学後の調査 アルバイト探訪 資格取得のすすめ 進路を考えよう①(福祉の世界の実践) 基礎力診断テストG・T・Z 基礎力診断テスト フリーターと正社員 進路を考えよう②(「理系系専攻専門学校」) 自分表現トライアル 企業内研修(1) 選考会議と規定 就職試験に挑戦 進路達成へのセルフチェック 進路引・必要学力の把握 基礎力診断テストの結果より 企業の仕組み② 企業内研修③ 企業内研修④ 調査等に関する職業について 調書等について 大学・短大・専門学校と資格の違い 反抗心の強い・向しにくい「若君へ就職関係の統計情報」 就職関係の統計情報 進路を考えよう④(「進路の運び方」) 大学進路関係の統計情報 進路見学会 SPI模擬試験 進路を考えよう⑤(「進路の運び方」) 勉強になるマンガ 基礎力診断テスト ライフプラン② ※進路を考えよう⑥(「手引の活用」) お父さん方の読み雑誌から① お父さん方の読み雑誌から② 3年生以上の進路講話 ※進路を考えよう⑦(「手引の活用」) 現学年担任団より 作文レクレーション 現3年生の進路状況報告 社会人講話 フリーター問題 インターンシップ選入 学習法(大学・短大・看護系) 学習法(公務員) マナーアップ(就職+専門学校) 専門学校について(就職+専門学校) | | | ・進路上必要とされる学力水準を理解し、そのための学習習慣を身につける。 ・コミュニケーション能力の基礎としての傾聴力の再確認と伸長を図る。 ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 ・高基本的生活の進路情報と進路選択方法を自ら提示し、自ら大きな目標を設定する。 ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 ・高基本的生活の進路情報と進路選択方法を自ら提示し、自ら大きな目標を設定する。 ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 | 職業意識の基本 と、進路選択の方 法および基本情 報を身につける。 基本的な進路情 報を身につけな がら、進路選択を 大まかに考える。 | | | | | |
| 1年 | | | | 現時点での全国比較での基礎学力の水準を知る 自らの職業適性を把握する 知らない人の前ですべて練習する 知らない人とのコミュニケーションの取り方を学ぶ 情報系を正確に聞く力の必要性を理解し、心がけるべきことを学ぶ 学校が「自らの可能性を追求すべき場所」であることを知る 部活動の効用を認識する 現学年に進路希望 3年生の進路決定までの時間などを確認する 社会での進路希望と学校の指導の必然性を理解する 学校での意識や学習のすすめを調べる 学校での意識や学習のすすめを調べる 希望する職業へのルートを確認する 成績関係の規定を理解する ライフプランの意味・高専で取れる資格の確認と推奨 資格の意味・高専で取れる資格の確認と推奨 学業到達ポイントの意識の拡充① 夏休みの学習状況の確認 一般常識・社会常識の拡充② 専門学校卒業後の進路の現実を知る① 表現力の拡充① 企業に有利な進路を追求する理由・利益が出る仕組みを知る 就職/進路選考会議の場を理解し、意識する 就職試験の種類と難易度を知る 進路達成という観点から日常生活を振り返る それぞれの進路に必要とされる学力を把握し、目標を持つ 2回の基礎力診断テストの結果の傾向と、反省点を知らせる 企業の本質や進路観から、世の中・社会は変化していることを考える 大学進学・専門学校進学・就職に関する注意事典と理想を知る 平均年収と平均年齢の統計から、職種の違いを知る 高専で取れる職種の種類と難易度を把握する 調査書の進路への役割を知り、現時点での平均評価を算出する 調査書の進路との役割を知り、現時点での平均評価を算出する フリーター志向・反社会志向の者の生き方の手段を調べる 基本的な就職関係の情報を把握する 進路選択方法のうち、自分の側の条件の整理の仕方を調べる 進路選択方法のうち、自分の側の条件の整理の仕方を調べる 進路選択方法のうち、自分の側の条件の整理の仕方を調べる 大学進路関係の統計情報 SPI模擬試験 進路を考えよう⑤(「進路の運び方」) 勉強になるマンガ 基礎力診断テスト ライフプラン② ※進路を考えよう⑥(「手引の活用」) お父さん方の読み雑誌から① お父さん方の読み雑誌から② 3年生以上の進路講話 ※進路を考えよう⑦(「手引の活用」) 現学年担任団より 作文レクレーション 現3年生の進路状況報告 社会人講話 フリーター問題 インターンシップ選入 学習法(大学・短大・看護系) 学習法(公務員) マナーアップ(就職+専門学校) 専門学校について(就職+専門学校) | | | ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 ・高基本的生活の進路情報と進路選択方法を自ら提示し、自ら大きな目標を設定する。 ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 | 職業意識の基本 と、進路選択の方 法および基本情 報を身につける。 基本的な進路情 報を身につけな がら、進路選択を 大まかに考える。 | | | | | |
| 2月 | | | | 基礎力診断テスト SPI模擬試験 進路を考えよう⑤(「進路の運び方」) 勉強になるマンガ 基礎力診断テスト ライフプラン② ※進路を考えよう⑥(「手引の活用」) お父さん方の読み雑誌から① お父さん方の読み雑誌から② 3年生以上の進路講話 ※進路を考えよう⑦(「手引の活用」) 現学年担任団より 作文レクレーション 現3年生の進路状況報告 社会人講話 フリーター問題 インターンシップ選入 学習法(大学・短大・看護系) 学習法(公務員) マナーアップ(就職+専門学校) 専門学校について(就職+専門学校) | | | ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 ・高基本的生活の進路情報と進路選択方法を自ら提示し、自ら大きな目標を設定する。 ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 | 職業意識の基本 と、進路選択の方 法および基本情 報を身につける。 基本的な進路情 報を身につけな がら、進路選択を 大まかに考える。 | | | | | |
| 1月 | | | | 基礎力診断テスト SPI模擬試験 進路を考えよう⑤(「進路の運び方」) 勉強になるマンガ 基礎力診断テスト ライフプラン② ※進路を考えよう⑥(「手引の活用」) お父さん方の読み雑誌から① お父さん方の読み雑誌から② 3年生以上の進路講話 ※進路を考えよう⑦(「手引の活用」) 現学年担任団より 作文レクレーション 現3年生の進路状況報告 社会人講話 フリーター問題 インターンシップ選入 学習法(大学・短大・看護系) 学習法(公務員) マナーアップ(就職+専門学校) 専門学校について(就職+専門学校) | | | ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 ・高基本的生活の進路情報と進路選択方法を自ら提示し、自ら大きな目標を設定する。 ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 | 職業意識の基本 と、進路選択の方 法および基本情 報を身につける。 基本的な進路情 報を身につけな がら、進路選択を 大まかに考える。 | | | | | |
| 3月 | | | | 基礎力診断テスト SPI模擬試験 進路を考えよう⑤(「進路の運び方」) 勉強になるマンガ 基礎力診断テスト ライフプラン② ※進路を考えよう⑥(「手引の活用」) お父さん方の読み雑誌から① お父さん方の読み雑誌から② 3年生以上の進路講話 ※進路を考えよう⑦(「手引の活用」) 現学年担任団より 作文レクレーション 現3年生の進路状況報告 社会人講話 フリーター問題 インターンシップ選入 学習法(大学・短大・看護系) 学習法(公務員) マナーアップ(就職+専門学校) 専門学校について(就職+専門学校) | | | ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 ・高基本的生活の進路情報と進路選択方法を自ら提示し、自ら大きな目標を設定する。 ・職業意識を涵養し、やがて社会人になるにあたっての心構えと日常の心がけを意識させる。 | 職業意識の基本 と、進路選択の方 法および基本情 報を身につける。 基本的な進路情 報を身につけな がら、進路選択を 大まかに考える。 | | | | | |

10 学年進路指導計画と身につけさせたい能力・学年進路指導目標・学年進路指導内容との関連

| 学年 | 月 | 学校行事など | 進路行事 | 実施形態 | 内容おおよびねらい | 進学/就職 | 身につけさせたい能力との関連・学年進路指導内容との関連 | | | 学年進路指導目標 | 半期毎の目標 | | |
|-----|---|---|--|--|---|-------|-----------------------------|---------|---------|----------|--------|--|--|
| | | | | | | | 進路指導計画の達成度 | 能力の育成状況 | 指導内容の関連 | | | | |
| 4月 | | | 基礎力診断テスト、進路マップ 今すべきこと 学校説明会へ行こう ライオンラン⑤ | 臨時 | ・現時点での全国比較での基礎学力の水準を知る ・自分の職業適性を把握する ・すべきことの再確認 ・学校説明会参加→「オープンキャンパス参加」→「受験」という流れを確認 ・具体的な日程を確認、参加を呼びかける | | | | | | | | |
| | | | | 通信 | ・このままの平均評定・進路希望の変化・保護者との打ち合わせ状況の確認 ・3年次の目標をさまざまな分野に渡って具体化し、進路決定につなげる | | | | | | | | |
| 5月 | | | 失敗例に学ぶ⑥ | LHR | ・就職試験・進路における失敗例を知り、ありがちなミスを防ぐ | | | | | | | | |
| | | | 民間企業経験者の話「佐々木先生」 | 通信 | ・企業側の考えを具体的にヒアリングから知る | | | | | | | | |
| | | | ビジネスセミナー⑦「お茶の出し方」 | 通信 | ・お茶の出し方をビジネスシーンとして必要であることを知る | | | | | | | | |
| | | | 進路別模試⑧ | LHR | ・自分の学習上の課題の明確化 ・平均評定・出席状況・志望理由など、推薦時に必要な事項を確認、整理させる ・3年生の時間の使い方をワークシートで計画させる | | | | | | | | |
| 6月 | | 現在のあなたのアウトラインは？(大・短・推) 模擬試験(大・短・看一般) 作文練習(専) | 進路G | ・学力の確認と意識づけ ・3年生の時間の使い方をワークシートで計画させる | | | | | | | | | |
| | | | 進路G | ・推薦書の上記一般で必要となる作文に過去問を利用して取り組む ・就職までの日程と、前期中間考査の重要性を把握する | | | | | | | | | |
| | | | 進路G | ・進路規定を確認する ・平均評定・出席状況・希望の整理、志望動機など必要事項を確認、整理させる ・「学校説明会参加」→「オープンキャンパス参加」→「受験」という流れを確認 ・具体的な日程を確認 | | | | | | | | | |
| 7月 | | オープンキャンパスへ行こう ビジネスセミナー⑩「上履、下履」 ※志望理由・志望の動機を考える ビジネスセミナー⑪「とっさのひとこと」 進路別模試⑨ ライオンラン⑥ 現在のあなたの希望は？(大・短・推) 模擬試験(大・短・看一般) 過去問練習(専) | 通信 | ・学校説明会参加→「オープンキャンパス参加」→「受験」という流れを確認 ・具体的な日程を確認 | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・一般社会での応募の履歴などの作成法を知る ・志望理由・志望の動機の見破れ方 ・間違えた教語を見破れるか確認 ・間違った教語を直し、必要な材料を考える | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・間違った教語を直し、必要な材料を考える ・間違った教語を見破れるか確認 ・間違った教語を直し、必要な材料を考える | | | | | | | | | |
| | | | LHR | ・自分の学習上の課題の明確化 ・推薦希望の第一回の調査 ・推薦希望の理由・希望の整理、志望動機など必要事項を確認、整理させる ・3年生の時間の使い方をワークシートで計画させる | | | | | | | | | |
| 8月 | | 夏休みまでの日程・履歴書の書き方(就) 夏休みが終わり 3学年出校日① 3学年出校日② 人生の正念場到来 履歴書記入心算 ビジネスセミナー⑬「電話の受け方」 履歴書作成 面接過去問 面接指導 | 進路G | ・履歴書作成の心掛と方法 ・履歴書作成の心掛と方法 ・履歴書作成の心掛と方法 | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・履歴書作成の心掛と方法 ・履歴書作成の心掛と方法 ・履歴書作成の心掛と方法 | | | | | | | | | |
| 9月 | | 面接指導 面接後 ※就職試験チェック 面接受けは(たぶん)ここを見ている 進路状況別・今後への注意 | 通信 | ・面接の過去問を知り、自分が受ける企業・大学の傾向を把握 ・基本的な答え方、立ち居振る舞い・マナーを確認(初級) ・効果的な答え方・当日の留意点・力を込めるポイント・印象に残るために(上級) ・面接試験の試験官側の視点を知り、試験対策の一助とする ・今後の受験上の作戦を考える(未就職者) ・周回の内容を気にしすぎないよう注意(未進学者) ・必要なら手練き連れや、気のゆるみからの事故がないよう注意(決定者) | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・面接の過去問を知り、自分が受ける企業・大学の傾向を把握 ・基本的な答え方、立ち居振る舞い・マナーを確認(初級) ・効果的な答え方・当日の留意点・力を込めるポイント・印象に残るために(上級) | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・面接の過去問を知り、自分が受ける企業・大学の傾向を把握 ・基本的な答え方、立ち居振る舞い・マナーを確認(初級) ・効果的な答え方・当日の留意点・力を込めるポイント・印象に残るために(上級) | | | | | | | | | |
| 10月 | | 就職ウィザ情報 ビジネスセミナー⑭「電話のかけ方」 ビジネスセミナー⑮「伝言のしかた」 ビジネスセミナー⑯「面接について」 ビジネスセミナー⑰「出社時の注意点」 早期就職のデメリット 早期就職のメリット | 通信 | ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 ・就職ウィザ情報 | | | | | | | | | |
| 11月 | | 年制状出さそう ビジネスセミナー⑱「祝儀袋・清葉袋」 ビジネスセミナー⑲「おもてなしビジネスマナーって？」 危機管理金銭篇 危機管理健康管理篇 危機管理事務・トータル篇 危機管理職場篇 フェロローアップガイダンス | 通信 | ・名刺交換の暗黙のルールを知る ・採用したかった企業への年制状の出し方を確認、出すように呼びかける ・祝儀袋・香典袋などの使い方・正しい包み方を知る ・「マナー」の存在意義を知る ・金銭面でのトラブル・事故の回避法を知る ・健康管理の方法を知る ・事務・トータル時の正しい対応を知る ・職場で知ってしまいがちな犯罪・職難ししてしまつたときの対応などを知る | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・名刺交換の暗黙のルールを知る ・採用したかった企業への年制状の出し方を確認、出すように呼びかける ・祝儀袋・香典袋などの使い方・正しい包み方を知る ・「マナー」の存在意義を知る ・金銭面でのトラブル・事故の回避法を知る ・健康管理の方法を知る ・事務・トータル時の正しい対応を知る ・職場で知ってしまいがちな犯罪・職難ししてしまつたときの対応などを知る | | | | | | | | | |
| 12月 | | フェロローアップガイダンス | LHR | ・決定者には進路指導を振り返るためのアンケート、後輩方へのメッセージを記入させる ・卒業を控えた3年生に今後のがんばりを期待するメッセージ | | | | | | | | | |
| | | | 通信 | ・決定者には進路指導を振り返るためのアンケート、後輩方へのメッセージを記入させる ・卒業を控えた3年生に今後のがんばりを期待するメッセージ | | | | | | | | | |

卒業後の社会生活・学生生活で必要となる社会常識を育成する。

6 各領域における指導内容と扱い および検討依頼先

※は宮城県教委の文言、#は担当者の試案である。

担当者の意図を注記する。

この項は、検討後はそれぞれの分野の取り組み計画や報告となります。

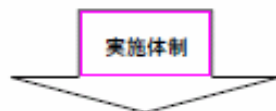
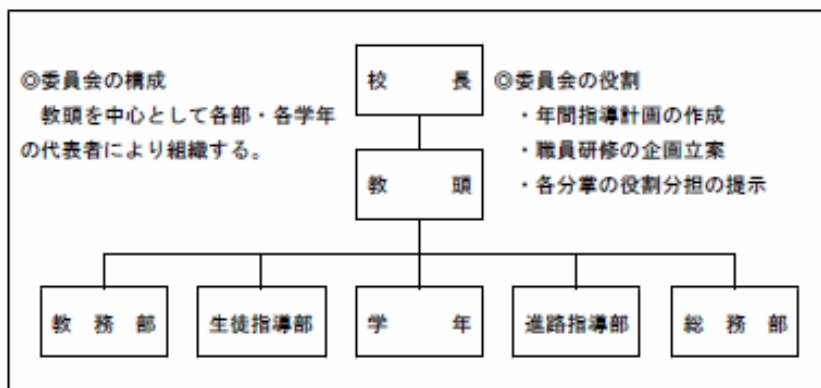
| | 領域 | 指導目標 | 具体的な指導内容 | 担当者注記 | 検討依頼先 |
|-------|---------------------------|---|--|---|---------------------------------|
| 各教科 | 普通教科 | ※学ぶことの大切さを理解させ、主体的に学習に取り組む態度と実践力を育てる。 | 日々の授業の工夫 | この文言はこのままでよいのでは。 | 各教科 +教務部 |
| | 専門教科 | #技術者として必要な知識と技能を身につけさせ、あわせてものづくりを担っていく人材として必要な興味関心と態度を育てる。 | 日々の授業の工夫 | できる限り共通の文言でお願いします。 | 電子機械科 土木科 農業経営科 |
| | 学校設定教科 (パワーアップ) | #基礎基本となる内容を確実に学びつつ、学習習慣や達成経験を身につける。 | ねらいを踏まえたパワーアップ実践と検証 | 教科「パワーアップ」の目的そのままでもよい? | パワーアップ委員会 |
| | 総合的な学習 実習・課題研究 | #小集団での活動を通し、問題解決能力とコミュニケーション能力(特に状況把握力)を伸ばす。 | (総学)エンカウンター・グループでの進路先調査など? (実習・課研)内容の工夫 | 総学は普通科のみなので、実習がない分のグループ活動や、進学的な内容の補足が欲しい? | 総学小委員会 電子機械科 土木科 農業経営科 |
| 教科外指導 | ホームルーム活動 (SHR・LHR・その他) | ※コミュニケーションを図り、望ましい人間関係の構築を軸に、各活動を進める。 #自己肯定感・他者への理解を獲得する | 日常の関わりの中で意識する | ※は総花的、#は本校生徒の実態を念頭に特定したもの。どちらが良いだろうか? | 生徒指導部 |
| | 生活指導 | #やがて社会に出ることを念頭に、ルール・規範意識・マナー等の必要性に気づかせ、率先して守る態度を育成する。 | HRや集会での服装・頭髪指導、「着こなしセミナー」など | あいさつの励行について指導できないだろうか。 | 生徒指導部 |
| | 朝学習 | #基本的な生活習慣の確立・維持、学習習慣の定着、学習の短期目標、資格取得の一助とする | 朝学習 (朝SHR前) | 目標は本当に素案であるので、慎重に検討いただきたい。 | 1・2学年 |
| | 1分間スピーチ | #面接試験等へ向け、コミュニケーション能力のうち発信力を育成する | 1分間スピーチ (SHR内) | ぜひ継続いただきたい | 2学年 |
| | 清掃活動 | #環境美化意識・勤労意識・役割意識の獲得と定着を目的とする | 清掃 | 外掃を環境意識と絡めて強化できないか 文言は完全に素案なので慎重に検討下さい | 厚生相談部 |
| | 学校行事 | ※学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を重視し、自主的・自発的な態度を養うとともに、集団への所属感を深めていく。 | 学校行事への事前指導・行事そのものなどで指導する | 本校生の実態に照らすとあまり実効性のない文言なので、検討が必要か? | 生徒指導部 |

| | | | | |
|-------------------|--|------------------------|--------------------------------------|---------------------|
| 生徒会活動・(委員会活動・部活動) | ※主体的な活動を通して、集団生活での各自の役割を自覚させ、社会性や自己を生かす能力や態度をはぐくんでいく。 | 生徒会・各委員会・各部活動 | 県のオリジナルでは生徒会活動のみだが、委員会や部活動も含まれる文言では？ | 生徒指導部 |
| 進路行事 | ※学校行事等との連携を図りながら、社会の中での自分という面に目を向けさせ、具体的・現実的な進路を考えさせる。 | 進路LHR・進路ガイダンス | 「学校行事との連携」がよくわからないので、引っかかると言えば引っかかる | 進路指導部 |
| その他の教育活動 | ※キャリアカウンセリングを通して、個と集団に対する指導・支援を充実させていく。 | 二者面談・三者面談・進路相談の充実・資料整備 | 面談の目標および資料を充実させることで達成可能？ | 厚生相談部(相談係) 進路指導部 |

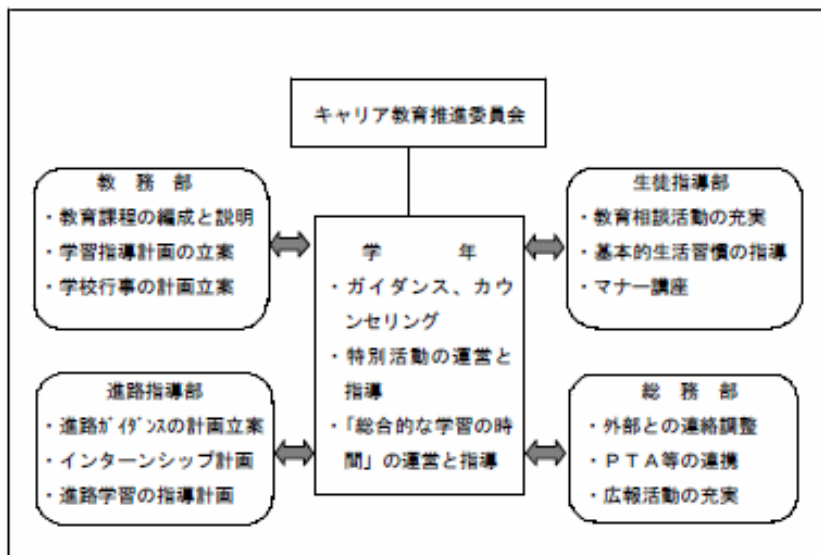
これらの責任部署に、キャリア研修会後に全体計画の文言の検討を依頼する。

その際、Ⅲ-5に挙げたような視点について、各分掌に把握いただいて、キャリア教育の観点から有効な計画となるようきちんと意思統一する必要がある。

「キャリア教育推進委員会」組織図(例)



実施計画における実施体制



IV キャリア教育導入にあたって

1 平成21年度の方針

(1) 指導目標の共有化

(2) 課題の共有化

- ・「全体計画」の各文言を、学年・学科・分掌の計画・目標に位置づける
- ・様々な指導の局面で具体化
- ・学年・学科・分掌で、生徒育成の目標を共有

(3) 指導の系統化・規格化

- ・指導目標や実践の様子をもとに、進路指導計画をさらに系統化・内容の精査
- ・進路指導計画のそれぞれの略案を整備
- ・該当学年分の略案を年度初めに全て配布（平成22年度以降）、そのための準備

(4) 外部講師・見学会の充実

- ・予算によるが、活用できそうなものは積極的に

(5) キャリア・カウンセリングの充実

- ・二者面談・三者面談の充実
- ・現行の二者面談・三者面談資料に加え、事前ワーク・カルテ等を整備？

(6) マナー・コミュニケーションの向上

- ・生徒指導との連携
- ・平素の指導の充実
- ・環境教育との連携？

(7) 企業とのパイプづくり

- ・現状は3学年に企業回りで協力頂いている
- ・もう少し広げられないか？

(8) 「未来へ」活用

- ・記入ワークを導入？
- ・ファイルに綴じさせ、ポートフォリオ？

(9) 生徒及び保護者への周知

- ・「キャリア教育」の計画や、学年進路指導目標を周知

2 今後に向けて

- ・「キャリア教育」という名称には通常は身構えてしまうが、実際上は名称にあまりとらわれる必要はないと思われる。各分掌・各学科・各学年が、目標を共有して指導にあたることができれば、少なくとも「キャリア教育」のねらいの半分くらいは成立する。「キャリア教育」という名称よりも、学年進路指導目標の具体化にこだわっていただければと思います。
- ・計画の部分（上記の主に（1）～（4））については運営委員会が、実践の部分（上記の主に（5）～（8））については全先生方が関わる形になるが、それぞれ目標を尊重して指導にあたって頂ければと思います。

3 キャリア教育に関する予算執行について

方針

- ・ 数年でなくなる予算なので、キャリア教育の根幹を構築するための投資になるような、研究・研究的な使い方が望ましい。

費目

- ・ **講師謝礼・交通費（生徒対象の講演・講習・ワークショップ・実践講座）**
 - ★ガイダンスの講師謝礼として位置づけ、内容検討・人脈構築・ノウハウ研究の一助とする。
 - 「社会」に関する講話
 - 「職業」に関する講話
 - 「マナー」に関する体験型講習→企業の新人教育を担う会社などを呼べるのでは？
 - 「学問」に関する講話
- ・ **見学のバス代など**
 - ★現状の計画では、普通科は大学・短大・専門学校、工業学科は工場・現場見学、農業科はない？
 - ★数年限定で、普通科は就職・工業学科は進学・研究系の見学を行い、見学会の内容の検討材料とする。
 - 企業見学ツアー（普通科・商業系のもの？マナー研修場所への移動？）
 - 大学等見学ツアー（工業系学科は東北工業大？ものづくり最先端見学？）
- ・ **研修旅費**
 - ★キャリア教育を成功させる上では、学年の果たす役割が大きく、また関連部署の連携がポイントである。
 - ★新1学年主任、キャリア教育担当者、進路指導部長、就職担当者、学科長などはいわゆる「先進校」を見学し、経験的・理念的な「貯金」を行うことが望ましい。
 - キャリア教育先進県・先進校の視察
2～3名 東京・神奈川・愛知 3日間程度を年2回、など
- ・ **資料・書籍購入費**
 - ★あまり文献は出版されていないが、一通りはそろえておいた方が良さそうである。
 - ★義務校の範囲まで購入し、地元の小中学校にもリストを配布し、希望があれば貸し出すなども考えられる。
 - キャリア教育に関するもの
- ・ **講師謝礼・交通費（教員対象の研修会）**
 - ★全国区でキャリア教育をリードしている中心的な人物を呼べないか。
 - キャリア教育研修会
- ・ **資料作成費**
 - ★県への報告や関係各所へ配布など、必要経費である。
 - 報告資料集印刷・製本

別表1 企業への聞き取り調査

<質問>

- ・就職するに当たって身につけて、考えておいて欲しいこと
- ・教員に生徒に教えて、伝えておいて欲しいこと

<対象>

- ・採用活動等で本校を訪れた企業の方
- ・企業訪問等で本校から伺った企業の方

<回答>

- ・社会人になっても勉強が続く。社会人は日々が評価対象であり、数年のうちに大きな差がつくこともある。**自ら学ぼうとする姿勢**が必要である。学校のように丁寧に教えてもらえるわけではない。後輩に追い抜かれたり、同期がみんな役職についてしまったりすると苦しい。
- ・**頼まれごとをいやがらずにやる**人は伸びている。結果的に自分の実にもなる。(トヨタ自動車東北)
- ・**「働く」という意識**を持つ。受け身ではだめ。頭を自分で使うこと
- ・**今していることが何のための作業なのか、理解できる**と良い
- ・**異年齢集団の中での「コミュニケーション能力」**を身につけて欲しい。やめる子供は共通してこの力がなく、一人で悩んだあげく「辞める」という結論を出してしまう。(東北ライト製作所)
- ・**さわやかさ、挨拶** (今は警備でも「いらっしやいませ」が必要)、元気良さ (ALSOK)
- ・**社会に出てからの常識**を考えて、少し身につけて欲しい
- ・**「社会」や「組織」というものを少しわかって**から入ってきて欲しい (東北テクノカーボン)
- ・一人前になるには時間がかかる。企業も育てるために人に投資をする (**資格を取らせる、研修会に参加させるなど**) ので、その意識を持って欲しい (サイユーキ)
- ・**人物、しっかり挨拶ができる、明るい、笑顔**
- ・**コミュニケーション能力** (協調性、思っていることを話す、人の話を聞ける) (東北計器工業)
- ・**異年齢集団とのコミュニケーション能力**
- ・自動車普通免許は、必ず3月までに取る (日の丸合成樹脂工業)
- ・**コミュニケーション能力** (挨拶は当たり前で、**その次**)
- ・(海や自然の恵みを仕事のタネにしている) **自然の恵みを分けてもらっているという考え方**ができるか (尾坪商店)
- ・**周囲とのコミュニケーション** (新開)
- ・**第一印象**が大切。挨拶ができる**元気**がよい人
- ・受けのタイプではダメ。**コミュニケーション**がとれる人 (自分から)
- ・**常識**のある人 (善し悪しのわからない人が増えている)
- ・自分の**健康管理**ができる人 (休まない)

- ・ **自分の意見**をはっきり伝えられる人
- ・ **長く勤めたい**と考えている人（古川エヌ・デー・ケー）
- ・ まずは**挨拶**（簡単なものはできるが応用がきかない人が多い）、**先輩とのコミュニケーション**など
- ・ **マナー全般**（客の荷物をまたいだり、上司の会話している間を通ったり、風呂の入り方を教えなければならなかったり、ということに困っている）（富士屋ホテル）
- ・ **元気・明朗・団体での仕事ができること**・欠勤は困る（エルプラン東日本）
- ・ **学生から社会人の気持ちの切り替え**
- ・ 甘えの部分の改善や、**自己啓発**の姿勢、**厳しい部分から逃げない姿勢**がほしい（ハンサム）
- ・ **生活のリズム**をきちんと取れる・**挨拶・返事**などごく当たり前の事をきちんとして欲しい
- ・ **日本語**。作文を全部ひらがなで書いたり、全部口語体で書かれるとがっかりする（ケディカ）
- ・ 技能職については**根気強さ、忍耐力**が第一。そして**コミュニケーション能力**、あいさつがきちんとできること。コミュニケーション能力が低い生徒から辞めていく。
- ・ 技術職は、大卒は国立大しか採用していない。高校生卒ではそんなに大したことは期待していないと思う。高卒の人たちには、海外で現地の人たちのリーダーをやらせようという意図があるようで、そこからすると、語学を含むコミュニケーション能力が必要とされそうである。専門性に関しては、「3DのCADができるか」ということを厳格に問う。（セントラル自動車）
- ・ チームでの業務が基本となるので、**休まない人**が第一条件
- ・ **前向き・チャレンジ精神・プラス思考**の人
- ・ **チームプレイ**のできる人（運動部など）（エフピコ仙台）
- ・ **将来設計**がある程度できる人・「月収」単位だけではなく「年収」単位で把握できる人・**正社員の意味**を把握している人（扇屋商事）
- ・ **人とのつきあい方（異年齢との）**が長続きするコツ。
- ・ 仕事は、入ってから覚えればよい。その前段階の**人との接し方**を知っていて欲しい（ジェイフィルム）
- ・ **正社員のメリットを理解**して欲しい。**あいさつ**は大切である。（シー・エス・アイ）
- ・ 意欲。学校を卒業しただけでは高卒も大卒も通用しない。入社後の勉強を継続できるかどうか。**自分で覚えようとする姿勢**は必要である。
- ・ **意思表示の明確さ**。「もそもそ」として意思表示のはっきりしない人は置いて行かれる。製造業といえども顧客の要求レベル上昇に伴い、営業的な要素もこなさなければならない。（小林機械）
- ・ **コミュニケーション能力**。「聞く耳を持つかどうか」「幅広い世代が言っていることを理解できるか」「自分の意思表示ができるか」
- ・ **ある程度の適格な体格**が必要。男性であれば太って動きが鈍いのはダメ。女性であれば大きさが必要（SENON）

別表2 関係団体による「キャリア教育」諸能力の定義と「身につけさせたい力」の関連

・文部科学省・国立教育研究所生徒指導研究センター「職業的（進路）発達に関わる諸能力」

| | | |
|----------|---|-------------|
| 人間関係形成能力 | 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。 | 自他の理解能力 |
| | | コミュニケーション能力 |
| 情報活用能力 | 学ぶこと、働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。 | 情報収集・探索能力 |
| | | 職業理解能力 |
| 将来設計能力 | 夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。 | 役割把握・認識能力 |
| | | 計画実行能力 |
| 意思決定能力 | 自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。 | 選択能力 |
| | | 課題解決能力 |

・経済産業省「社会人基礎力」

| | | |
|---------------------|-------------|--------------------------|
| 前に踏み出す力 (アクション) | 主体性 | 物事に進んで取り組む力 |
| | 働きかけ力 | 他人に働きかけ巻き込む力 |
| | 実行力 | 目標を設定し確実に行動する力 |
| 考え抜く力 (シンキング) | 課題発見力 | 現状を分析し目的や課題を明らかにする力 |
| | 計画力 | 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 |
| | 創造力 | 新しい価値を生み出す力 |
| チームで働く力 (チームワーク) | 発信力 | 自分の意見をわかりやすく伝える力 |
| | 傾聴力 | 相手の意見を丁寧に聴く力 |
| | 柔軟性 | 意見の違いや立場の違いを理解する力 |
| | 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 |
| | 規律性 | 社会のルールや人との約束を守る力 |
| | ストレスコントロール力 | ストレスの発生源に対応する力 |

・厚生労働省「就職基礎能力」

| | | |
|-------------|--------------|---|
| コミュニケーション能力 | 意思疎通 | 自己主張と他人の意見を聴くことのバランスをとりながら、効果的に意思の疎通ができる。 |
| | 協調性 | 双方の主張の調整を図り、調和を保つことができる。 |
| | 自己表現能力 | 状況に合ったプレゼンテーションを行うことができる。 |
| 職業人意識 | 責任感 | 社会の一員としての自覚を持っている。 |
| | 向上心・探求心 | 働くことへの関心や意欲を持ちながら、進んで課題を見つけ、レベルアップを目指すことができる。 |
| | 職業意識・勤労観 | 職業や勤労に対する幅広い見方・考え方をもち、意欲や態度等で示すことができる。 |
| 基礎学力 | 読み書き | 事務・営業職の職務に必要な文書の知識を持っている。 |
| | 計算・計数・数学的思考力 | 事務・営業職の職務に必要な数学的思考方法や知識を持っている。 |
| | 社会人常識 | 社会人として必要な常識を持っている |
| ビジネスマナー | | 集団生活に必要な気持ちのよい受け答えやマナーの良い対応ができる。 |
| 資格取得 | 情報技術関係 | 社会人として必要なコンピュータの基本機能の操作や情報処理・活用ができる。 |
| | 経理・財務関係 | 社会人として必要な経理・会計、財務に関する知識を持ち活用ができる。 |
| | 語学力関係 | 社会人として必要な英語に関する知識を持ち活用ができる。 |

・宮城県教育研修センター「自立を支える基礎的な力」

| | | |
|-----------|-----------------------------|------------------|
| | 平成17・18年度「高等学校の視点」 | 平成19年度「校内研修会用資料」 |
| 人間関係を築く力 | 周囲に心を開き、信頼関係を築く | 自分の考えを適切に伝える |
| | 他人と協力する | 相手を理解する |
| | 自分の意見と他人の意見を調整し、まとめる | 協力して物事に取り組む |
| 自分を高めていく力 | 物事に対して前向きな見方や受け止め方ができるようにする | 課題に対して見通しをもつ |
| | 一つの行動を継続する | 自分の感情をコントロールする |
| | 自信を持つ | 物事に継続して取り組む |

・宮城県教育研修センター「キャリア発達課題」

| | |
|----------|--|
| 自己理解能力 | 自己の個性・能力・適性感性を理解し、自己分析を通して内的な深化を図る能力 |
| 自己表現能力 | 自分の考えや感じ方、感情を伝えるために、豊かに表現する能力 |
| 人間関係形成能力 | 集団・組織の中でコミュニケーションを図り、豊かな人間関係を築いていく能力 |
| 他者理解能力 | 互いを認め、尊重し合うために、他者の個性や価値観を理解する能力 |
| 将来設計能力 | 将来の生き方を思い描き、社会の現実を踏まえながら、将来を計画し、選択・決定していく能力 |
| 職業理解能力 | 学校と社会・職業生活の関連の中で、働くことの意義や、役割などについて理解を深めていく能力 |

・「身につけさせたい能力」と諸能力との関連（○は明白に関連、△は若干の関連）

| 職業的(進路)発達に関する諸能力 (文部科学省) | 人間関係形成能力 自他の理解・コミュニケーション | 情報活用能力 情報収集・探求・職業理解 | 将来設計能力 役割把握・認識・計画実行 | 意思決定能力 選択・課題解決 |
|--|-----------------------------|------------------------|------------------------|-------------------|
| 本校「身につけさせたい能力」 | | | | |
| ・進路選択を適切に責任持って行える自己理解・情報収集・処理・計画実行の能力 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ・働くことへの意思、目的意識、責任感など、広い意味での勤労観・職業観 | | ○ | ○ | ○ |
| ・社会規範・マナー・コミュニケーション能力など、社会人としての基礎的な資質と能力 | ○ | | ○ | |
| ・職業人として、また上級学校進学後に必要最低限の学力 | | | | |

| 社会人基礎力 (経済産業省) | 前に踏み出す力 主体性・働きかた力・実行力 | 考え抜く力 課題発見力・計画力・創造力 | チームで働く力 発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性 |
|--|--------------------------|------------------------|----------------------------------|
| 本校「身につけさせたい能力」 | | | |
| ・進路選択を適切に責任持って行える自己理解・情報収集・処理・計画実行の能力 | ○ | ○ | |
| ・働くことへの意思、目的意識、責任感など、広い意味での勤労観・職業観 | ○ | △ | |
| ・社会規範・マナー・コミュニケーション能力など、社会人としての基礎的な資質と能力 | △ | | ○ |
| ・職業人として、また上級学校進学後に必要最低限の学力 | | | ○ |

| 就職基礎能力 (厚生労働省) | コミュニケーション能力 意志疎通・協調性・自己表現能力 | 職業人意識 向上心・職業意識・勤労観 | 基礎学力 読み書き・計算計数・数字的思考力 | 社会人常識 | ビジネスマナー | 資格取得 情報・経理・語学・技術・財務力 |
|--|--------------------------------|-----------------------|--------------------------|-------|---------|-------------------------|
| 本校「身につけさせたい能力」 | | | | | | |
| ・進路選択を適切に責任持って行える自己理解・情報収集・処理・計画実行の能力 | | | | | | |
| ・働くことへの意思、目的意識、責任感など、広い意味での勤労観・職業観 | | ○ | | | | |
| ・社会規範・マナー・コミュニケーション能力など、社会人としての基礎的な資質と能力 | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| ・職業人として、また上級学校進学後に必要最低限の学力 | | ○ | ○ | | | |

| 自立を支える基礎的な力 高等学校での視点 (宮教研セ) | 人間関係を築く力 周囲に心を開き、信頼関係を築く | 他人と協力する | 自分の意見と他人の意見を調整し、まとめる | 物事に対して前向きな見方や受け止め方ができるようにする | 一つの行動を継続する | 自信を持つ |
|--|-----------------------------|---------|----------------------|-----------------------------|------------|-------|
| 本校「身につけさせたい能力」 | | | | | | |
| ・進路選択を適切に責任持って行える自己理解・情報収集・処理・計画実行の能力 | △ | | | △ | | △ |
| ・働くことへの意思、目的意識、責任感など、広い意味での勤労観・職業観 | | | | △ | △ | |
| ・社会規範・マナー・コミュニケーション能力など、社会人としての基礎的な資質と能力 | ○ | ○ | ○ | | | |
| ・職業人として、また上級学校進学後に必要最低限の学力 | | | | | | |

| キャリア発達課題 (宮教研セ) | 自己理解能力 | 自己表現能力 | 人間関係形成能力 | 他者理解能力 | 将来設計能力 | 職業理解能力 |
|--|--------|--------|----------|--------|--------|--------|
| 本校「身につけさせたい能力」 | | | | | | |
| ・進路選択を適切に責任持って行える自己理解・情報収集・処理・計画実行の能力 | ○ | | | | ○ | △ |
| ・働くことへの意思、目的意識、責任感など、広い意味での勤労観・職業観 | | | | | | △ |
| ・社会規範・マナー・コミュニケーション能力など、社会人としての基礎的な資質と能力 | | ○ | ○ | ○ | | |
| ・職業人として、また上級学校進学後に必要最低限の学力 | | | | | | |

- ・経済産業省「創造力」と厚生労働省「資格取得」は本校の「身につけさせたい能力」に該当しない。「創造力」は、基礎的な能力が高いレベルで結合することで発生するもので、教員を含め、他人が育成できるものではないと考える。「資格取得」は「キャリア教育」の文脈ではなく、「進路指導」や「専門学科での指導」の文脈で考えるべきものである。したがって本校のカテゴリからは外した。

別表3 「高等学校学習指導要領 第4章 特別活動」

第4章 特別活動

第1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

第2 内容

A ホームルーム活動

ホームルーム活動においては、学校における生徒の基礎的な生活集団として編成したホームルームを単位として、ホームルームや学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。

(1) ホームルームや学校の生活の充実と向上に関すること。

ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決、ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動、学校における多様な集団の生活の向上など

(2) 個人及び社会の一員としての在り方生き方、健康や安全に関すること。

ア 青年期の悩みや課題とその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会生活における役割の自覚と自己責任、男女相互の理解と協力、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解、国際理解と国際交流など

イ 心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など

(3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること。

学ぶことの意義の理解、主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用、教科・科目の適切な選択、進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の確立、主体的な進路の選択決定と将来設計など

B 生徒会活動

生徒会活動においては、学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動、ボランティア活動などを行うこと。

C 学校行事

学校行事においては、全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。

(1) 儀式的行事

学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと。

(2) 学芸的行事

平素の学習活動の成果を総合的に生かし、その向上の意欲を一層高めるような活動を行うこと。

(3) 健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動

の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵（かん）養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。

(4) 旅行・集団宿泊的行事

平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。

(5) **勤労生産・奉仕的行事**

勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達段階及び特性等を考慮し、教師の適切な指導の下に、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。その際、ボランティア活動や、**就業体験など勤労にかかわる体験的な活動の機会をできるだけ取り入れるとともに**、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。
- (2) 生徒指導の機能を十分に生かすとともに、**教育相談（進路相談を含む。）についても、生徒の家庭との連絡を密にし、適切に実施できるようにすること。**
- (3) **学校生活への適応や人間関係の形成、教科・科目や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するようホームルーム活動等の指導を工夫すること。**
- (4) 人間としての在り方生き方の指導がホームルーム活動を中心として、特別活動の全体を通じて行われるようにすること。その際、他の教科、特に公民科との関連を図ること。

2 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) ホームルーム活動については、学校や生徒の実態に応じて取り上げる指導内容の重点化を図るようにすること。また、個々の生徒についての理解を深め、信頼関係を基礎に指導を行うとともに、指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が助長されるようにすること。
- (2) 生徒会活動については、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が展開されるようにすること。
- (3) 学校行事については、学校や地域及び生徒の実態に応じて、各種類ごとに、行事及びその内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなど精選して実施すること。また、実施に当たっては、幼児、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、自然体験や社会体験などを充実するよう工夫すること。
- (4) 特別活動の一環として学校給食を実施する場合には、適切な指導を行うこと。

3 入学式や卒業式などにおいては、その意義を踏まえ、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するよう指導するものとする。

4 **ホームルーム活動については、主としてホームルームごとにホームルーム担任の教師が指導することを原則とし、活動の内容によっては他の教師などの協力を得ることとする。**

